

令和4年度第1回学校運営協議会（議事要点）

日時 令和4年6月23日（木）

14:00～16:50

場所 矢掛高等学校 会議室

【委員】

- 井辻 美緒 地域住民（やかげ小中高子ども連合 代表理事）
奥村 美恵 地域住民（矢掛高校地域協働活動コーディネーター）
小野 秀明 学識経験者（矢掛中学校 校長）
金子 晴彦 地域住民（矢掛町観光交流推進機構 理事長）
檜崎 裕志 地域住民・学識経験者
（元中学校 校長、矢掛町教育委員会教育長職務代理者）
藤永 浩次 保護者（矢掛高等学校 P T A会長）
藤原 立志 地域住民・学識経験者（元小学校 校長、矢掛高等学校同窓会 副会長）
堀 賢一 地域住民（矢掛町役場総務防災課 課長、元矢掛高等学校 P T A会長）
堀 伸二 地域住民（備中西商工会矢掛地区 代表理事）
宮本 浩治 学識経験者（岡山大学大学院教育学研究科 准教授）
高月 秀人 矢掛高等学校 校長

【事務局】

- 田中 宏和 矢掛高等学校 教頭
山本 恭子 矢掛高等学校 事務長
森谷 浩巳 矢掛高等学校 主幹教諭
植田 雄介 矢掛高等学校 教務課長
岡野 太郎 矢掛高等学校 生徒課長
横溝 清明 矢掛高等学校 進路課長
吉岡 雄志 矢掛高等学校 E S D課長

【次第】

- 1 開 会
 - ・校長挨拶
 - ・自己紹介
 - ・学校運営協議会規則の説明
- 2 会長・副会長の選出
- 3 会長挨拶
- 4 説 明
 - ①本日の日程
 - ②学校生活の概要

5 協議

- ①令和4年度学校運営計画及び組織編成
- ②令和4年度学校予算
- ③教育課程及び年間行事予定
- ④学校評価書の具体的計画と達成基準について
- ⑤「高校と地域で創る未来の学びプロジェクト事業」について
- ⑥その他

6 連絡

- ①今後の運営協議会について
 - ・第2回：11月
 - ・第3回：2月
- ②その他

7 閉会

- ・副会長挨拶

【議事要点】

1 開会

- ・校長挨拶

コミュニティスクールとなつての最初の委員会なので、まず学校運営協議会の設置について説明する（説明）。この協議会は RM の研究がきっかけとなつて始まっている。後に説明する学校運営を内外の委員で議論し、多岐にわたつて活動するべきと考える。RM 成果としては、地域 CN の採用、矢掛教育会議の開催（矢掛町における 12 年間の切れ間のない教育）である。学校評議員会との違いは、合議制であること、人事に関する要望などを地域の要望として県に提出できる点等である。

- ・自己紹介
- ・学校運営協議会規則について（説明）

2 会長・副会長の選出

会長に檜崎委員、副会長に藤原委員が推薦され、満場一致で両名が選出された。

3 会長挨拶

- ・学校の単なるイエスマンにはなりたくないと考えている。先生方に緊張感と安心感をもつてお仕事をしてもらいたい。また、生徒と直接かかわっている担任等の教員や生徒さんのお話を聞きたい。
- ・この協議会でたくさん御意見をいただきたい、参加してよかったと思える協議会にしていきたい。

4 説明

- ① 日程説明

② 学校生活の概要（校長）

- ・ 1 学年が 120 名定員なので、通常は 3 クラスであるが、普通科総合コースを 2 クラス編成とし、4 クラスで運用している。したがって教員負担が増えるが、生徒のためをお願いしている次第である。
- ・ 全国に誇れることは、やかげ学、ESD タイム（総合的な探究の時間）である。
- ・ 県内で誇れることは矢掛町による地域 CN の採用で、終日校内にいてくれるので大変助かってる。また、生徒への町による金銭面でのサポート、コンテスト参加、少人数教育を実践している。
- ・ 連携体制としては、本日の学校運営協議会の他に、月に 1 回行われる矢掛教育会議を設立していただいた。
- ・ 生徒が魅力を感じていることは、普通科探究コースでは少人数教育、普通科総合コースでは やかげ学と E S D タイム、地域ビジネス科では商品開発である。

5 協議

① 令和 4 年度学校運営計画及び組織編制（学校要覧）

- ・ 学力、社会人基礎力等の生徒の力を伸ばし、進路実現を目指すべく計画し、校務分掌を編成している。そのための本校の武器は少人数教育であり、さらなる地域連携を推進していくことである。
- ・ 学校運営協議会の位置づけ（説明）
- ・ 教員数が少なく厳しい現状なので、県に対し町費での教員採用の可能性を問うたが、県としては市費、町費で雇う教員の前例はないとのことなので、教員確保が困難な状況である。

② 令和 4 年度学校予算（説明）

- ・ 簡略に説明

③ 教育課程及び年間行事予定（説明）

④ 学校評価書の具体的取組と達成基準について

- ・ 学校関係者評価は学校運営協議会で行うこととなっている。6 月、11 月、2 月を予定している。
- ・ 教務課...地域連携を推進することで、学びに向かう力を育てていきたい。
- ・ 生徒課...教員が声掛けをするなどして、自己肯定感の醸成を図りたい。
- ・ 進路課...生徒面談を繰り返し丁寧に行うことで、自己の進路に対して積極的に行動できる生徒を育成したい。
- ・ ESD 課...ボランティアや地域活動の意義等を事前に説明することで、生徒が意欲的に参加できるような環境づくりを整えていきたい。

⑤ 「高校と地域で創る未来の学びプロジェクト事業」について（説明）

- ・ 現在の活動のブラッシュアップを図りたい。そして、現在の成果を外部に広報することで情報発信を行っていきたい。
- ・ 地元矢掛中学校の卒業生の志願者を、もう少し増やしたい。
- ・ 在校生が入学前に矢掛高校の魅力と感じているところは、ボランティア活動、やかげ

学・商品開発、矢掛町との連携であるが、入学後は少人数授業、活発な部活動、通学しやすい、ということが魅力と感じている。

【委員の意見】

- ・数年前は地元中学生の入学率が高いときもあった。
- ・「向き合い方が親密」ということが、保護者の間でじわりと広がったようであった。

⑥ その他

- ・(校長) 本年度は、「先生に期待すること」を各教員に提示し、目標をもって具体的に仕事をしてもらっている。
- ・(校長) 今年度、本校としての柱は2つある。一つはこの協議会で、さまざまな議論をしながら具体的な方策を検討していく。もう一つは、小中高12年間を通じて切れ目のない教育をしていくために、新たに設立された矢掛教育会議でさまざまな提案をしていくことである。

【委員の意見】

- ・夫婦そろって矢掛高校卒である。妻はなんとなく入学したが、私は目的をもって入学した。いずれにせよ、「先の魅力」の情報発信が必要である。また、どれだけ矢掛に帰ってくるか、街の魅力づくりとも関わってくる。
- ・親どうしのつながりで学校を選んだということをよく聞く。この度のオープンスクールで主催者側の保護者として話す機会をもらった。微力ながら学校を支援していく。
- ・先ほどのアンケートで入学後によくなかったと感じたところがあれば、その改善に向けて協力して取り組んでいきたい。
- ・個人指導、部活動、諸行事など、先生方の負担がどんどん増している。教員増については、正式に要望したほうがよい。
- ・(校長) 小学校の校長から、やかげ学で矢高生を指導するにあたって「矢高として身に付けさせたい力」を明示してほしい、との要望があった。年度当初に配布した資料にも示しているが、周知していきたい。
- ・「あこがれる生徒、すごい生徒」がいることは大きな広報資源となる。生徒の自己肯定感の醸成が必要で、振り返り（リフレクション）で成長を自身に実感させることが大切である。
- ・評価書については、他に称賛された、感謝されたという教育活動の場面や、具体を示した評価書を目指すべきで、でなければ評価できない。
- ・「来たくなる学校、行かせたくなる学校」。地域の方との「願い」を共有し、子どもを矢掛で育てていくと、将来的に矢掛に戻ってくるのではないか。
- ・地元進学は「大切」であると皆考えているが、その思いはそれぞれである。

- ・「魅力的な先生」が矢高にいる、中高交流が盛んであることも大切な要素である。経営目標に入れてはどうか。
- ・「勤めてよかった」と思えるかどうか。よかったと思える教員がどのくらいいるか。そのように思える職場になるべきである。

6 連絡

① 今後の運営協議会について

- ・11/14（月）予定

② その他

【委員の意見】

- ・やかげ小中高こども連合の活動を推していただきたい。生徒に一声をかけていただきたい。また、「〇〇したい」で来させてもらえたらよい。来て活動すれば、さまざまな力が身に付き、将来的にも進路的にも役立つ。

7 閉会

・副会長あいさつ

忌憚のない意見、ありがとうございました。ほどよい緊張関係がある協議会であり、年度末に各種の評価をするために、保護者等の声に耳を傾ける必要がある。

ベトナム日本語教室は高校生にとっても利のある活動であり、参加していただいていたがたい。1年生から参加した生徒は岡山大学に進学し、卒業後も来てくれている。種をまく、さまざまな場面＝受け皿を広げることが課題である。今後とも御意見いただきたい。年度末には具体化していく。